

JENESYS アセアン10ヶ国高校生派遣プログラム ～ ベトナム研修 ～

(研修期間) 平成24年7月24日(火)～8月2日(木)まで(9泊10日)

(研修国) ベトナム社会主義共和国

【目的】 財団法人日本国際協力センター主催によるこの度の研修は、大規模な青少年交流を通じてアジア(ASEAN 諸国=インドネシア、カンボジア、シンガポール、タイ、フィリピン、ブルネイ、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、ラオス)の強固な連帯にしっかりとした土台を与えるとの観点から、日本政府により進められている事業です。平成19年からの5年間、相互理解と友好関係の促進を目的とした交流プログラムとして実施されています。本校としては、この研修が日常の気づき(アンテナ)を外へと向けさせる貴重な機会であり、学校内外を問わず必ず周囲へと刺激を与えるものであると確信し、今回のプログラムに参加しました。

【記録】 ●7月24日(火)の行程

- ・成田エアポートレストハウスにて結団式・オリエンテーション
(JENESYS 事業の概要や派遣プログラムのコンセプト等)日本アセアンセンターによる講義

●7月25日(水)の行程

- ・ハノイへ向けて出国

●7月26日(木)の行程

- ・在ベトナム日本国大使館訪問
- ・ベトナム国際青年開発協力協会(CYDECO)訪問
- ・市内視察(ベトナム軍事歴史博物館、世界遺産タンロン遺跡、ホーチミン廟)
- ・タイロン水上人形劇観劇

●7月27日(金)の行程

- ・私立グエンシュウ高校訪問
校内見学、各国紹介(ソーラン節披露)、共同制作、授業参加(英語・歴史)等

●7月28日(土)の行程/グエンシュウ高校生との合宿1日目

- ・文化施設訪問・文化体験(バッチャン村訪問、バッチャン焼き絵付け体験)
- ・ホン川孤児院(寺)訪問
- ・旧市街視察(ナイトマーケット等)

●7月29日(日)の行程/合宿2日目

- ・ホームヴィジット(5家庭に日本生徒各2名ずつ)
- ・ワークショップ(気づき等報告会、ゲーム等)

●7月30日(月)の行程/合宿最終日

- ・世界遺産ハロン湾でのクルージング、鍾乳洞見学

●7月31日(火)の行程

- ・日系企業訪問…三菱重工業エアロスペースベトナムさんを見学
- ・ホテル会議室にてグループ協議

●8月1日(水)～2日(木)の行程

- ・報告会
- ・歓迎昼食会
- ・帰国

【成果概要】

顔合わせから間もないメンバーでの共同生活に加え、参加生徒の殆どが初めての渡航である中、与えられた多くのカリキュラムに臨んだ10日間でした。僅かな準備期間と現地での実践において、彼らはその一つ一つをととても丁寧に責任を以って対応しました。

ここ5年ほど行われてきたアセアン研修では、今回が初めてというベトナムテレビの取材が3日間入り、ホン川孤児院（寺）への訪問の様子などが全国ニュースで放映されました。そのような折も、堂々と感じたことを自分の言葉で伝えることができました。



多くの貴重な体験を通し「人生観が全く変わった。」「日本が客観的に見えてきた。日本の問題で改善すべきことと、後世に残すべきことがわかってきた。」「当たり前のように教育を受けていることに、もっと感謝するべきだ。」などといった生徒の感想が大変多く上げられました。

今回のように言葉の壁を越えた海外との触れ合いは、生徒たちにとって本当にかげえのない特別なものとなりました。この研修で得たものを存分に発揮し、リーダーシップ（思いやり、先を見越しての判断力や行動力など）のとれる人材へと成長することで、これからの長い人生に還元して行って欲しいと思います。

【主な研修内容】

- 7月24日（火）成田エアポートレストハウスでの結団式・オリエンテーション
参加校6校、生徒総勢70名が JENESYS で行っている事業や、今日のアジア事情について講義を受けました。日本との共通する言語の由来など、大変興味深い内容で、アジアへの関心は更に高まりました。



○7月26日（木）在ベトナム日本国大使館訪問

日本とベトナムの関係、アジア全体から見た経済的な視点を踏まえたお話を聞きました。現在、日本への留学生は、主なアジア諸国中なんとベトナム人が 3600人とトップとのことでした。アジアにとっての日本への関心度が伺えました。



ベトナム国際青年開発協力協会（シデコ）

ピラミッド型人口に見られる若者の多いベトナムにおいて、その柱となる青年教育の重要性について学びました。未だ義務教育が安定せず、普及教育中のベトナムの現状に生徒は衝撃を受けました。人口の問題ではなく、どこの国でも未来を担う若者の教育は不可欠であるということを改めて考えさせられました。



○7月27日（金）私立グエンシュウ高校訪問

一日、ベトナムの高校生になり授業に参加しました。今回ホスト校となってくださったグエンシュウ高校の皆さんからは、ダンスなど心のこもった歓迎会を開いて頂きました。付属の小学校と併設しており、どの児童、生徒も大変親しみやすく明るく挨拶をしてくれました。



高校設立の歴史についてお話を伺いました。

テレビの取材でインタビューを受ける工芸生。



<給食の時間>

今年度の体育祭で使用した各科のTシャツに身を包み、グエンシュウ高校の生徒約300人を前に、堂々とソーラン節を舞い大絶賛を浴びました。その後で皆で食べるベトナム料理の給食には、工芸生も美味しさに大喜びでした。



左：英語の授業に参加しました。誰もが積極的に授業に参加する楽しい授業でした。ベトナムの英会話力の高さに、工芸生は圧倒されました。その衝撃が、後々英語に対するモチベーションが上がる大きなきっかけとなりました。

○7月29日（日）グエンシュウ高校とのワークショップ

2泊3日の合宿最後の夜、気づき等ディスカッションやゲームを行いより親睦が深まりました。互いの国の疑問点などについて触れ大変有意義な時間となりました。



○7月30日（月）世界遺産であるハロン湾を遊覧と鍾乳洞見学

バスでの移動はハノイから片道3時間掛かりました。‘龍が舞い降りた湾’という伝説を持つ美しい湾を、昼食をはさみながらクルージングしました。前日の大雨が嘘のように晴れ、素晴らしい景観を楽しむことができました。



日本で言う‘夫婦岩’を前に、甲板からそれぞれの国歌を歌う生徒たち。

○7月31日（火）三菱重工業エアロスペースベトナムを見学

日本企業が築いたとされる広大な敷地を持つ工業団地。住友グループをはじめ、キャノンなどの大手企業が軒を連ねています。その団地内の一社である三菱重工業にお邪魔させて頂きました。この工場では、アメリカのボーイング社と提携し、主に飛行機の羽の部分を生産していました。ベトナム社員の流暢な日本語による案内にて見学させて頂きました。工場内では撮影が禁止のため画像はないのですが、日本人らしい教育が徹底され職場は実にきれいに整頓されていました。

また、「おはようございます」「こんにちは」の代わりに、工場内では日本語で「安全に」が挨拶の意味を持ち互いの声掛けとなっているなど、海外ならではの独特の工夫がされていたのが印象的でした。社員教育の徹底、仲間意識、雇用内容など日本の企業は、外国人社員に対しての対応が大変きめ細かいため、社員の皆さんも丁寧な仕事で応えているとのこと。職場には、ベトナム人の明るい雰囲気や勤勉さが伺われました。





○報告会準備によるグループ協議



生徒による司会を中心に、記録、発表者などを決め、会議室は内容の濃い協議が3時間以上におよびました。終始生徒が主体として進行。夕食後も、リーダーの部屋では夜遅くまでプロジェクトの準備と発表の練習が行われました。

○8月1日（水）報告会

今回お世話になったグエンシュウ高校の校長、また先生方をはじめ、在ベトナム日本国大使館職員、ベトナム国際青年開発協力協会（シデコ）職員の方々、また過去プログラムに参加した学生OBなど、100人以上がこの報告会に出席してくださいました。本校の生徒によるベトナムに対する気付きと、我が国日本に対しての問題点や継承すべき伝統等を挙げながら一人ずつ発表しました。鋭い点を突いた率直な意見に、周囲も同調し終始楽しい雰囲気では進みました。また工芸高校のプロモーションDVD（生徒作品）の上映と、ソーラン節の上演に、会場はより一斉の盛り上がりを見せました。

【 研修を終えて 】

研修で得た経験や人々との触れ合いを通し、ものづくりに携わる者として自分に何ができるのか、これからの生徒の未来に何かしらの形となってくれることを期待します。同じアジアに属する一国として一層の平和を願うと共に、温かみや自然美、色味のある感性を大事にするものづくりをこれからも提案していきたいと思えます。

ジェネシス、グエンシュウ高校の皆様をはじめ、参加生徒の保護者の皆様、またこのプロジェクトにご協力いただいた全ての皆様に心より感謝いたします。

引率担当 デザイン科 降矢